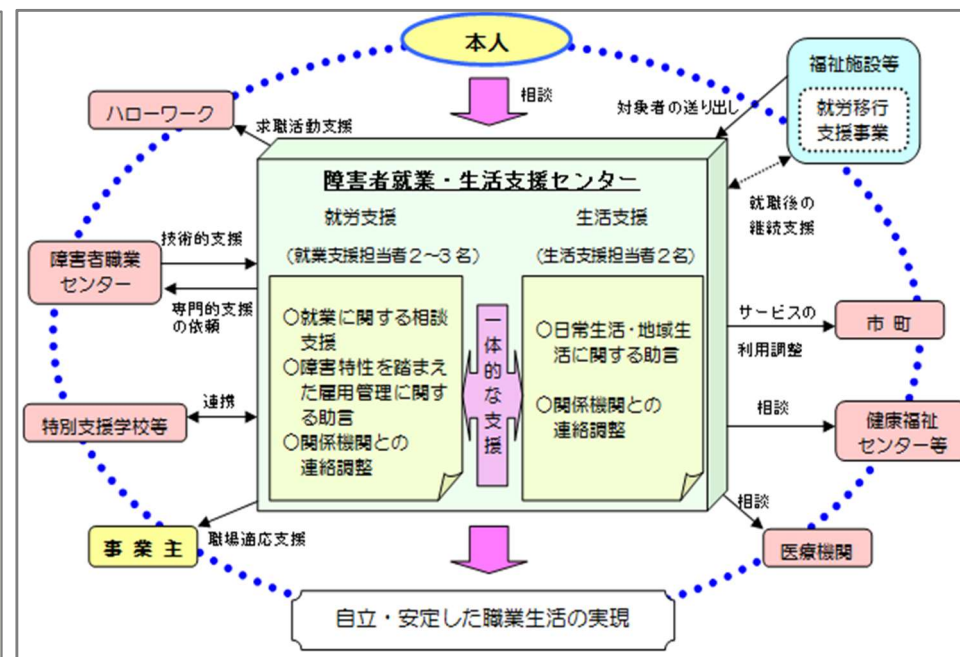


札幌障がい者就業・生活支援センター たすく

平成 29 (2017)年度 活動報告書

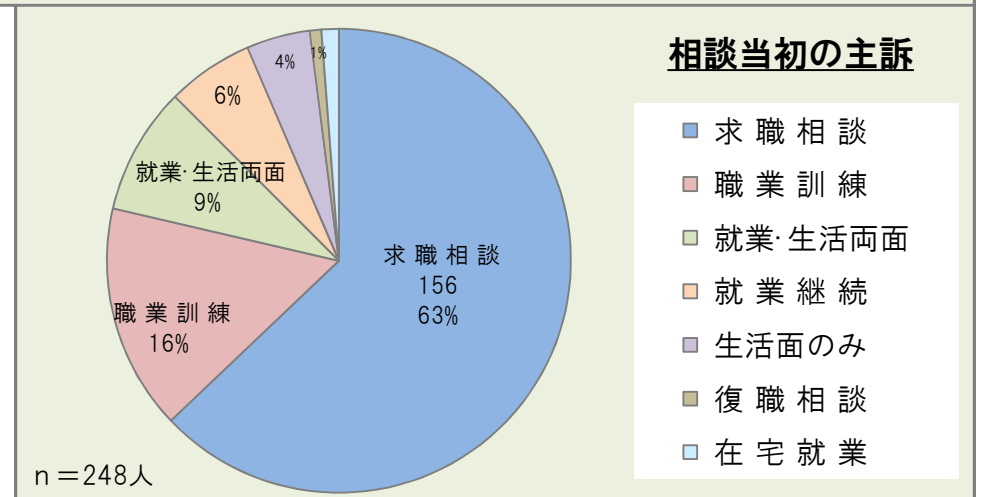
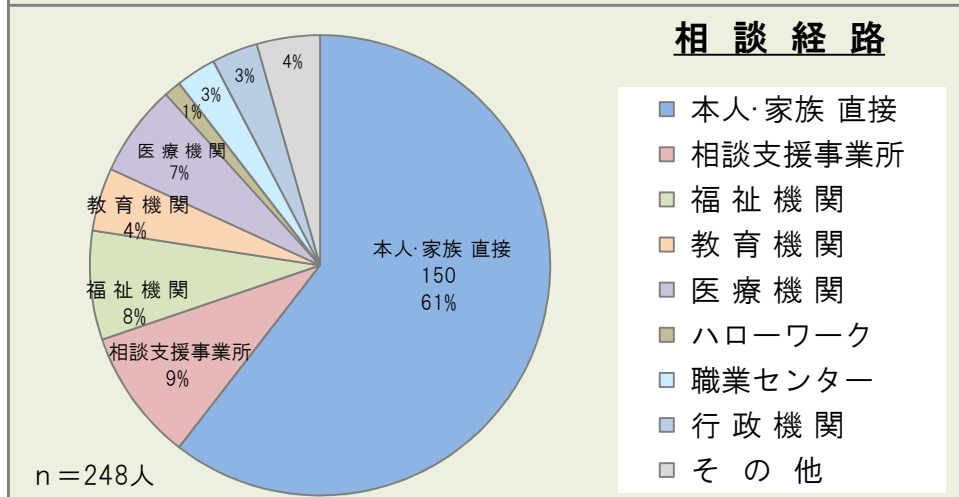
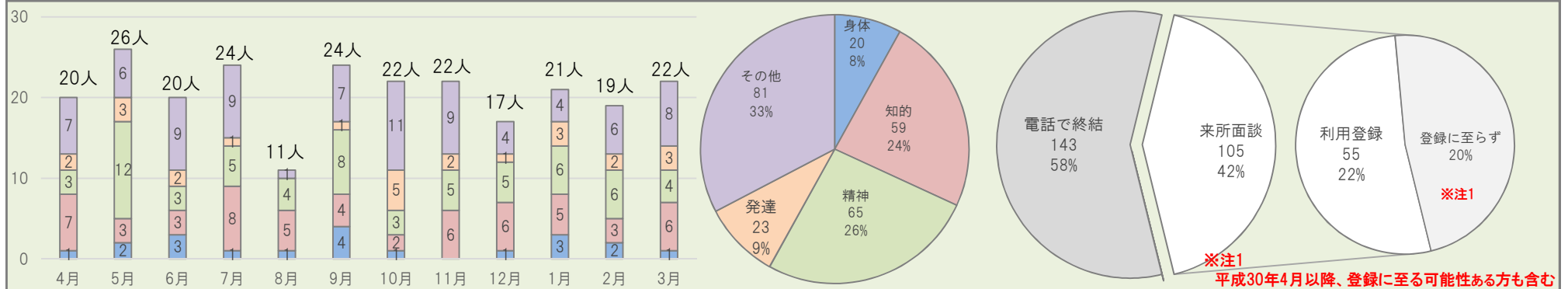
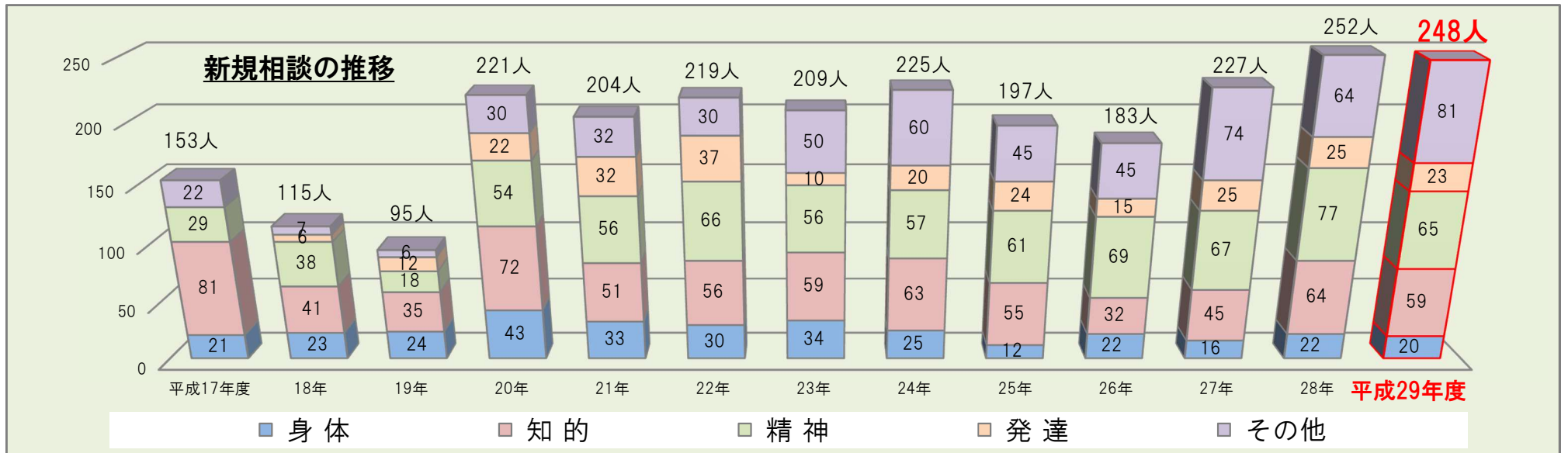
報告内容

1. 新規相談の状況
2. 登録者の状況
3. 相談支援の状況
4. 就職者の状況
5. 職場実習等の状況
6. 就労系サービス利用開始の状況
7. 企業からの相談状況
8. まとめ

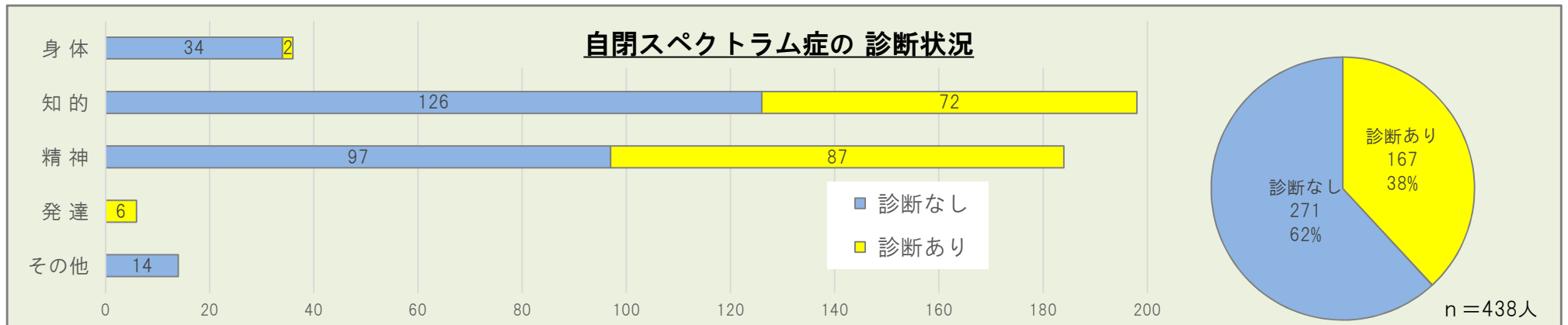
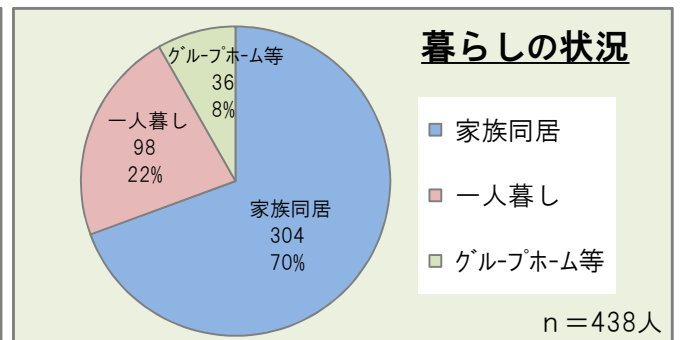
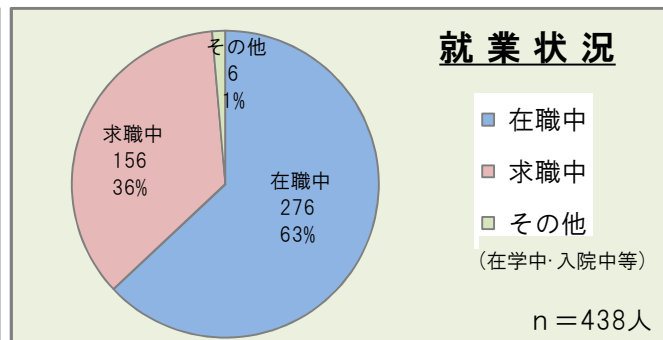
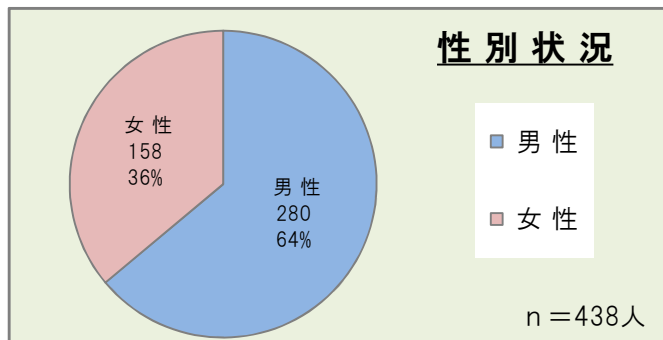
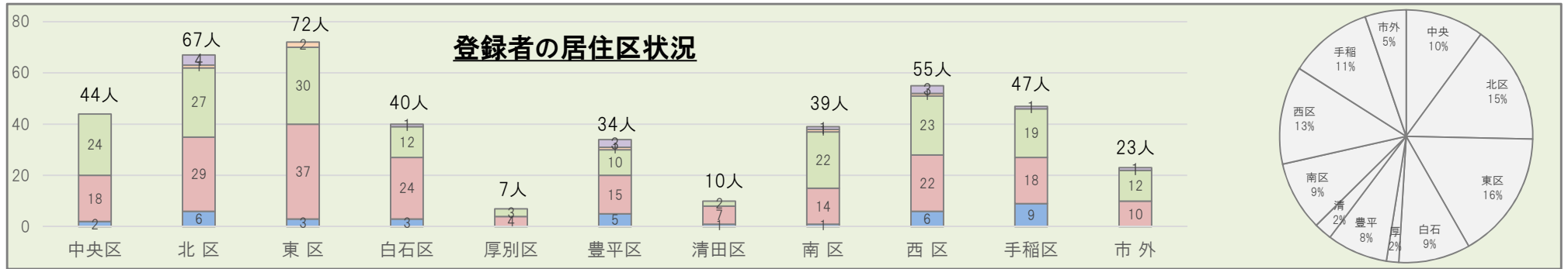
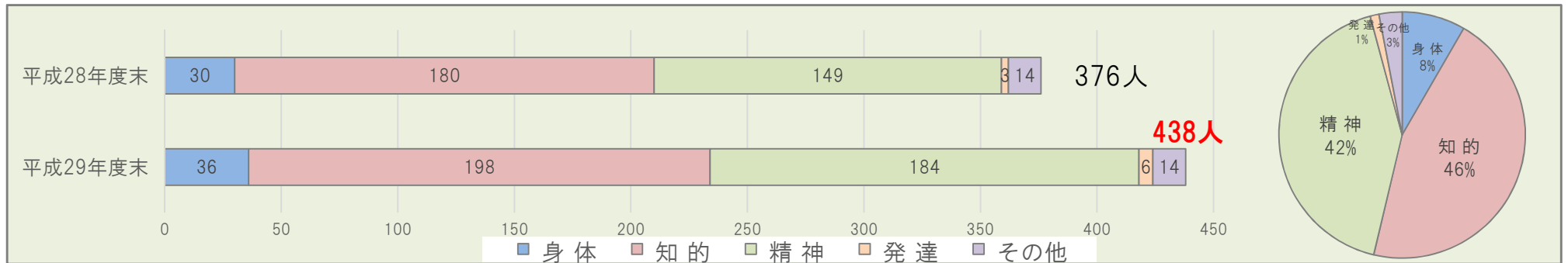


- ◆ 障がい種別、手帳の有無を問わず、相談支援を行っています。
(職業リハビリテーションの対象者)
- ◆ この報告書では、障害者手帳の交付を受けておられる場合は、自閉スペクトラム症・高次脳機能障がい・難病等の診断がある方についても交付された障害者手帳の種別で人数・件数等を計上しています。

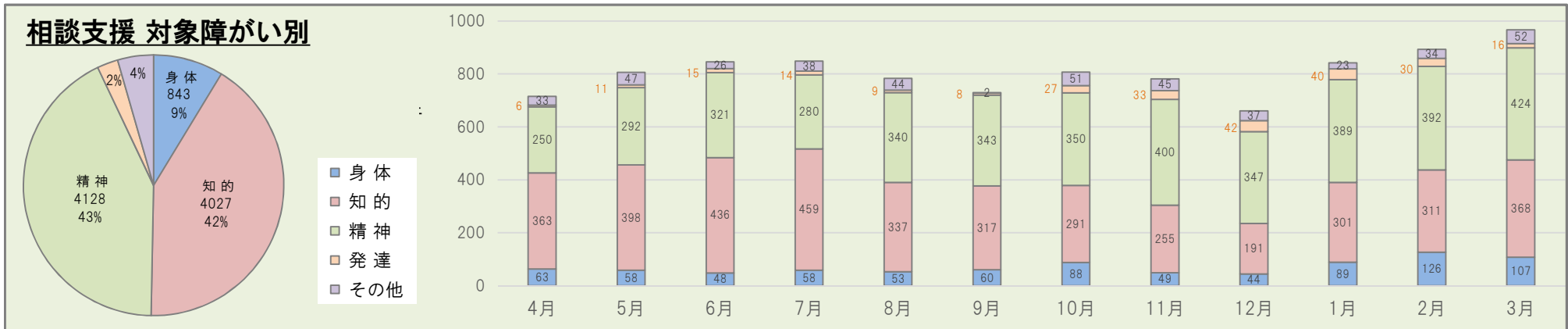
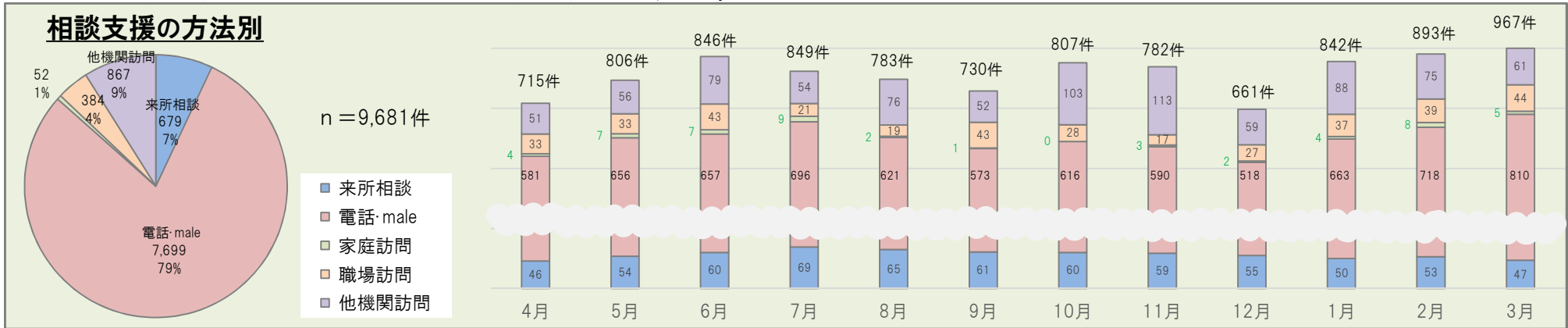
1. 新規相談の状況 新規相談 248人



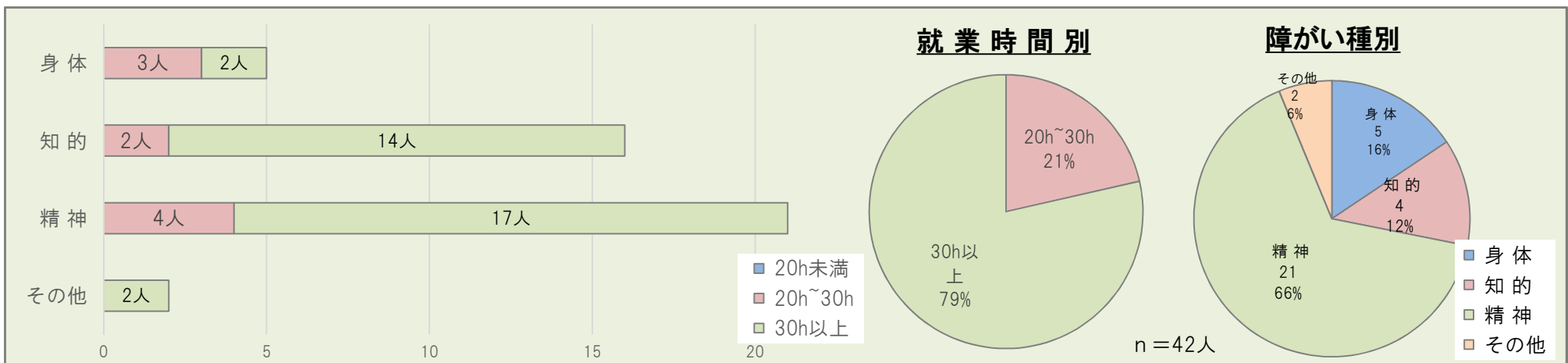
2. 登録者の状況 登録者 438人



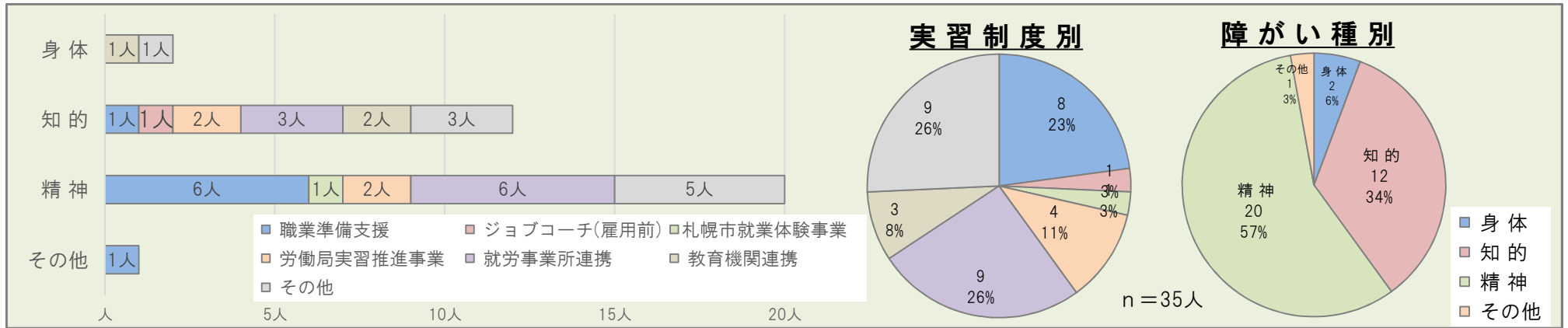
3. 相談支援の状況 相談支援件数 9,681件



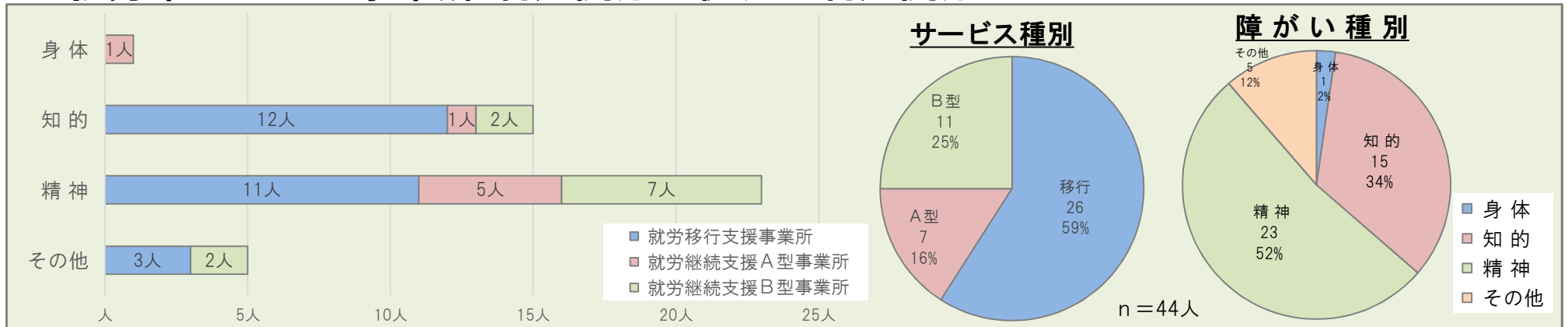
4. 就職者の状況 就職者 42人



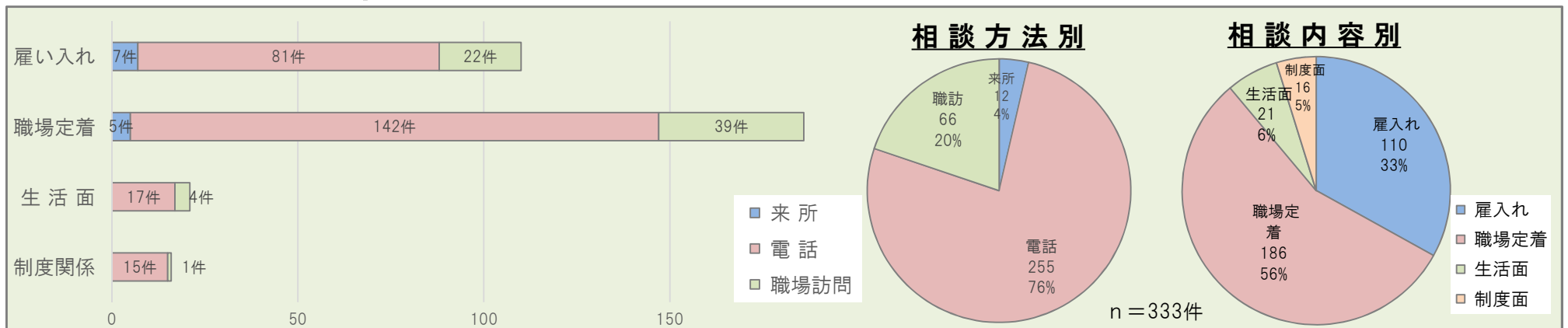
5. 職場実習等の状況 職場実習等 35人



6. 就労系サービス事業所 利用開始の状況 利用開始 44人



7. 企業からの雇用管理等の相談状況 相談 333件



8. まとめ

◆ 職員体制

- ・ 4月に職員1名が育休から復帰し、6名体制で事業実施（平成28年度と同じ）。職員1名が8月～産休・育休取得、代替募集を行ったが採用に至らず。実質的には5名体制での事業実施となった。

◆ 新規相談の状況

- ・ **248人**（前年度比4人減）。週最低2人の初回面談を実施。電話～初回面談の平均お待たせ期間は30日間。試行錯誤し取り組んだ結果、お待たせする期間を前年度より平均15日間短縮することができた。
（上半期の初回面談50人・お待たせ平均37日間 → 下半期の初回面談55人・お待たせ平均23日間）

◆ 登録者の状況

- ・ 平成28年度末登録者376人 - 2年以上相談支援がなかった9人を登録抹消 = 平成29年度当初367人。今年度内に72人を新規登録、1人登録抹消(本人希望)。平成29年度末の登録者は**438人**となった。
- ・ 自法人サービス利用者は15人(ワークス翔 移行:5人・B型:3人、サポートinサッポロGH:7人) 登録者の3.4%。

◆ 相談支援の状況

- ・ 登録者・新規相談者を含め499人の対象者に対し、**9,681件**の相談支援を対応。（前年度より1,225件増加）ペア担当制を継続。職員の経験値が上がってきたことで、初期アセスメント面談は職員2名で対応。その後の具体的な支援は1名で行ってペア担当間で共有・検討できる体制にシフトアップしつつある。

◆ 就職、職場実習の状況

- ・ 職業準備支援及び職場実習 **35人**。目標値40人には届かなかった（達成率87.5%）
- ・ 就職者 **42人**(目標達成率140.0%)。内、今年度末時点で職場定着されている方が36人（定着率78.5%）

◆ 就労系サービス利用開始の状況

- ・ 4月に実施した「就労移行支援事業所 状況調査」結果などを参考に、見学同行や体験振返りへの同席など支援を進め、**26人**が就労移行支援事業所の利用を開始（内 自法人ワークス翔は3人）。精神障がいの方は、2年以内の就職に不安を感じられ、B型との多機能型事業所を選定される傾向が顕著だった。

◆ 企業からの相談状況

- ・ 69社に対して**333件**の相談・支援を対応。平成30年度雇用率改正を動機とした雇い入れ相談が増加している。

◆ 平成29年度を振り返って(重点目標を中心に)

- ① 新規相談のタイムリーな対応に取り組み、お待たせ期間の短縮目標を達成することができた。
- ② 今年度より、ハローワーク・職業センターとの連携強化を目的とした「札幌職リハ連絡会議」を実施（2回）した。北海道労働局・札幌市障がい福祉課にも参画もらい、次年度以降も継続していく予定。
- ③ 北海道のナカポツ整備にむけ、各所で発信し行政との協議など取り組んだが、成果は出ていない。

